泌尿紀要12巻2号
昭和41年2月

京都府立医科大学泌尿器科分立前5年間（1959～1963）の入院患者および手術の統計的観察

京都府立医科大学泌尿器科学教室（主任：小田完五教授）
小田完五　久保泰徳　平竹康祐
井上　進　東　登伎雄　小野利彦
村田庄平　大山朝弘　三品輝男
村上　剛　岡村喜明　山田要助
保井明泰

STATISTICAL OBSERVATIONS ON IN-PATIENTS AND OPERATIVE TREATMENTS IN THE DEPARTMENT OF UROLOGY, KYOTO PREFECTURAL UNIVERSITY OF MEDICINE, FROM 1959 TO 1963

Kango ODA, Yasunori KUBO, Yasusuke HIRATAKE, Susumu INOUE, Tokio HIGASHI, Toshihiko ONO, Shohei MURATA, Choko OYAMA, Teruo MISHINA, Takeshi MURAKAMI, Yoshiaki OKAMURA, Yosuke YAMADA and Akihiro YASUI

From the Department of Urology, Kyoto Prefectural University of Medicine
(Director : Prof. Kango Oda)

Statistics on in-patients and operative treatments experienced at our urological clinic from 1959 to 1963 were reported.

The total number of in-patients was 962. Upper urinary urolithiasis was the most frequent lesion, occupying 19.0 % of all cases. This was followed by benign prostatic hypertrophy (10.5 %), bladder tumor (7.3 %), renal tuberculosis (7.0 %), and bladder stone (3.3 %).

There were 820 cases of operative procedures. Among these, 673 cases (82 %) were open surgeries and the rest (18 %) were transurethral procedures.

I 緒　言

先に報告した泌尿器科分立前5年間（1959～1963）外来患者の統計的観察と同様の理由および目的をもって，同期間における入院患者および手術について統計的観察を試みた．

II 入院患者数，男女別ならびに年度別観察

1959～1963年における泌尿器科入院患者数は962名で，その内男子731名，女子231名，男女比は3.16：1.00，又男女別外来数に対する比率では男3.85%，女2.60%で男が高率である．外来患者数に対する比率は1960年が最高，1963年は最低である．

III 年令構成

5年間の10才階級別年令構成は表2の如くである．2峯性を示し，最高は60才代の18%，第2峯は20才代の17%で50才代と同率，40才代と70才代の11%とつづいている．これを男女別にみると男子では60才代の峯が更に強調されているほか，男女併せた全体におけるとほぼ同様の起伏を示し，女子ではやや異って第1峯が30才代，第2峯が50才代に移り巾が縮少している．

Ⅳ　部位臓器別に分類した個々の疾患についての観察

イ．上部尿路疾患

本群中には表3の如き疾患が含まれており，その数は369例，入院総数の38%を占め，部位臓器別の第1位に位する．このうち疾患別第1位の上部尿路結石（入院数の19%，以下（　）内%は入院数に対する%を示す）と，疾患別第4位の腎結核（7%）と併せて本群の70%を占めている．その他多い疾患として疾患別第6位の尿管皮膚瘻（2.8%），第7位の特発性腎出血（2.7%），第10位の遊走腎（2.3%），第11位の水腎症（1.6%）がある．結石，結核は男子に多く，特発性腎出血，上部尿路瘻は女子に多い．男女別入院患者に対する比率でみると結石は男女同率，結核を始めその他の疾患では一般に女子に高い．

上部尿路結石に膀胱および尿道結石を加えて，尿路結石を一括表示すると表4の如くである．その数は220例，入院患者数の22.9%にあたり，上部尿路結石は尿路結石の83.2%を占めている．この中上部尿路結石疑診15例を除き，多い順にあげると尿管結石（10.4%），腎結石(7.1%)，膀胱結石(3.3%)，尿道結石(0.5%)，である．男女比でみると腎結石2：1，尿管結石4：1，膀胱結石7：1，尿道結石5：0で男子に頻度が高い．

尿路および性器結核を一括表示すると表5の如くである．その数は尿路結核67例と性器結核29例を合せて

表1　入院患者の年度別推移

年	1959	1960	1961	1962	1963	計	年間平均	男女別外来数に対する%	外来総数に対する%
男	127	166	174	156	108	731	146.2	1.929	3.85
女	42	47	43	49	50	231	46.2	1.332	2.60
計	169	213	217	205	158	962	192.4	1.741	6.45
男/女	3.02	3.53	4.05	3.18	2.16	3.16	／	／	／
外来総数に対する%	19.29	20.70	19.25	16.83	12.47	17.42	／	／	／

表2　年令構成

年		1959	1960	1961	1962	1963	計	男女別入院数に対する%	入院総数に対する%
0～9	男	2	2	2	7	5	18	2.46	2.18
	女	1	1	0	0	1	3	1.30	
10～19	男	11	11	7	6	3	38	5.20	5.41
	女	5	4	2	2	1	14	6.06	
20～29	男	20	32	33	18	20	123	16.83	17.15
	女	9	7	12	6	8	42	18.18	
30～39	男	12	25	18	18	18	91	12.45	15.38
	女	7	14	10	13	13	57	24.68	
40～49	男	18	21	19	15	6	79	10.81	11.54
	女	6	7	7	5	7	32	13.85	
50～59	男	22	25	36	25	10	119	16.28	17.15
	女	9	7	6	15	9	46	19.91	
60～69	男	25	26	32	39	26	148	20.25	18.09
	女	0	6	5	6	9	26	11.26	
70～79	男	16	20	23	22	16	97	13.27	11.02
	女	5	0	0	2	2	9	3.90	
80～	男	0	4	4	6	4	18	2.46	2.08
	女	0	1	1	0	0	2	0.87	
計	男	127	166	174	156	108	731	／	／
	女	42	47	43	49	50	231		

表3　上　部　尿　路　疾　患

年		1959	1960	1961	1962	1963	計	男女別入院数に対する%	入院総数に対する%
上部尿路結石	男	22	30	34	34	18	138	18.88	19.02
	女	7	11	9	6	12	45	19.48	
上部尿路結核	男	5	12	6	6	8	37	5.20	6.96
	女	6	7	3	6	8	30	12.99	
上部尿路腫瘍	男	1	0	2	1	1	5	0.68	0.83
	女	0	0	1	1	1	3	1.30	
特発性腎出血	男	0	3	5	2	1	11	1.50	2.70
	女	4	2	5	2	2	15	6.49	
水　腎　症	男	1	1	3	1	1	7	0.96	1.56
	女	3	1	1	1	2	8	3.46	
腎　盂　炎	男	0	0	0	2	1	3	0.41	0.62
	女	1	0	0	2	0	3	1.30	
腎炎，ネフローゼ	男	0	0	1	5	0	6	0.82	0.62
	女	0	0	0	0	0	0	0.00	
遊　走　腎	男	2	2	2	3	3	12	1.64	2.29
	女	1	1	2	0	6	10	4.33	
膿　腎　症	男	0	0	0	0	0	0	0.00	0.10
	女	0	0	1	0	0	1	0.43	
海　綿　腎	男	0	0	0	2	0	2	0.27	0.21
	女	0	0	0	0	0	0	0.00	
馬蹄鉄腎	男	0	0	1	0	0	1	0.14	0.10
	女	0	0	0	0	0	0	0.00	
腎　　瘻	男	1	0	0	0	2	3	0.41	0.52
	女	0	0	0	0	2	2	0.87	
尿　管　瘻	男	2	1	2	2	1	8	1.10	2.80
	女	1	3	3	6	6	19	7.36	
計		57	74	81	82	75	369	／	38.35
入院総数に対する%		33.73	34.27	27.32	39.51	47.47	38.35	／	／

表4　尿　路　結　石　症

年				1959	1960	1961	1962	1963	計		計	男女別入院数に対する%	入院総数に対する%
上部尿路	腎	右	男	3	4	7	3	4	21	29	男 45	6.61	4.68
			女	2	3	2	0	1	8				
		左	男	1	3	4	7	3	18	28	女 23	9.97	2.38
			女	2	0	0	3	5	10				
		両	男	2	1	2	0	1	6	11	計 68		7.06
			女	2	1	1	1	0	5				
	尿管	右	男	6	5	9	4	3	27	33	男 80	10.94	8.32
			女	0	2	2	0	2	6				
		左	男	9	10	9	16	7	51	65	女 20	8.66	2.08
			女	1	5	3	2	3	14				
		両	男	1	0	1	0	0	2	2	計 100		10.40
			女	0	0	0	0	0	0				

	疑い 男	0	7	2	4	0	13	／	／	／
	疑い 女	0	0	1	0	1	2　15			
計	男	22	30	34	34	18	男 138	／	18.88	14.35
	女	7	11	9	6	12	女 45		19.48	4.67
	計	29	41	43	40	30	計 183			19.02
下部尿路	膀胱 男	1	4	10	10	3	28	／	3.83	2.91
	膀胱 女	2	1	1	0	0	4　32		1.73	0.42　3.33
	尿道 男	2	1	0	1	1	5	／	0.68	0.52
	尿道 女	0	0	0	0	0	0　5		0.00	0.00　0.52
計	男	3	5	10	11	4	33	／	4.51	3.43
	女	2	1	1	0	0	4		1.73	0.42
	計	5	6	11	11	4	37			3.85
入院数に対する%		20.12	20.07	24.88	24.88	21.52	22.87	／	／	／

表5　尿路および性器結核

年		1959	1960	1961	1962	1963	計	男女別入院数に対する%	入院総数に対する%
腎	右 男	2	5	2	3	3	15	2.05	3.12
	右 女	2	4	2	2	5	15	6.49	
	左 男	2	6	4	3	4	19	2.60	3.43
	左 女	4	3	1	3	3	14	6.06	
	両 男	1	1	0	0	1	3	0.41	0.31
	両 女	0	0	0	0	0	0	0.00	
患側不明	男	0	0	0	0	0	0	0.00	0.10
	女	0	0	0	1	0	1	0.43	
計	男	5	12	6	6	8	37	5.06	3.85
	女	6	7	3	6	8	30	12.98	3.12
	計	11	19	9	12	16	67		6.96
入院総数に対する%		6.51	8.92	4.15	5.85	10.13	6.96	／	／
副睾丸	右 男	3	2	0	0	1	6	0.82	0.62
	左 男	2	3	3	3	3	14	1.92	1.46
	両 男	0	0	0	1	2	3	0.41	0.31
前立腺 男		0	0	2	0	2	4	0.55	0.42
精管 男		0	1	1	0	0	2	0.28	0.20
計		5	6	6	4	8	29	3.97	3.01
入院総数に対する%		2.96	2.82	2.76	1.95	5.06	3.01	／	／
総計	男	10	18	12	10	16	66	9.03	6.86
	女	6	7	3	6	8	30	12.99	3.12
	計	16	25	15	16	24	96		9.98
入院総数に対する%		9.47	11.74	6.91	7.80	15.19	9.98	／	／

96例，入院患者数の10.0%にあたる．尿路結核では偏腎結核（6.6%）が大勢を占め，男子（3.9%）が女子（3.1%）よりやや多い．

性器結核では副睾丸結核（2.4%）が大多数を占めている．

ロ　膀胱疾患

本群中には表6の如き疾患を含み，その数は121例で入院患者の12%を占め，部位臓器別第3位に位する．この内疾患別第3位の膀胱腫瘍（7.3%）は本群の59%を占め，男女比3：1で男子に多いが，男女別入院

患者に対する比では同率である．次いで疾患別第5位の膀胱結石（3.3%），第13位の神経因性膀胱（1.1%）がそれぞれ本群の26.8%，9.2%を占めている．前者は男子に，後者は男女ほぼ同数である．

ハ　尿道疾患

本群中には表7の如き疾患を含み，その数は38例で入院数の約4%を占め，部位臓器別第5位に位する．疾患別第11位の外傷性尿道狭窄（1.7%），炎症性尿道狭窄（0.6%）はそれぞれ1，2位を占め，併せて本群の58%にあたる．尿道結石，尿道破裂，尿道腫瘍がこれに次いでいる．尿道腫瘍，尿道カルンケルが全例女子，他は全例男子である．

ニ　前立腺疾患

本群中には表8の如き疾患を含み，その数は143例で入院数の14.9%を占め，部位臓器別の第2位に位する．この内疾患別第2位の前立腺肥大症(10.5%)，第8位の前立腺癌（2.6%）は併せて本群の88%を占める．

ここで尿路性器腫瘍を一括して表示すると表9となる．その数は218例で入院患者の22.7%にあたる．前立腺肥大症（10.5%）に次いで膀胱癌（7.3%），前立腺癌（2.6%）がある．性器腫瘍は男子に限っているが，尿道癌を除き尿路腫瘍は男子患者に高率である．

ホ　睾丸，副睾丸，精索，精嚢腺，陰嚢並に内分泌疾患

本群中には表10の如き疾患を含み，その数は45例で入院患者数の4.7%を占め，部位臓器別の第4位に位する．このうち疾患別第9位の副睾丸結核（2.4%）が第1位で，停留睾丸（0.7%），陰嚢水瘤（0.6%）を併せて本群の80%にあたる．

ヘ　陰茎疾患

ト　その他の疾患

以上の2群は表11に示す通りである．部位臓器別の6位に位し極めて低率である．

V　手　　術

手術内容を部位臓器別に分類して示すと表12の如くである．総数820例の82%即ち673例が観血的開放手術，残り147例は表13の如き経尿道的治療である．部位臓器別に頻度の高いものからあげると，腎（164），陰嚢内臓器（138），前立腺（133），陰茎（123），尿管（120），膀胱（118）で尿道（24）は最も低い．手術別に頻度の高いものをあげると包茎手術（117），尿管切石術（91），腎剔除術（96），TURP（72），前立腺被膜下剔出術（59），精管切断術（43），睾丸剔除術（36），腎盂切石術（33），副睾丸剔除術（31），砕石術（25），膀胱部分切除（24），尿管皮膚瘻（21）等がある．

手術術式と原疾患との関係をみると，腎剔除術（96）の過半数は腎結核（56）で，腎結石（16），腎腫瘍（14）がこれに次いでいる．腎瘻術（8）も亦腎結核（5）に多い．尿管吻合術（8）は膀胱腫瘍によっ

表6　膀　胱　疾　患

年		1959	1960	1961	1962	1963	計	男女入院数に対する%	入院総数に対する%
膀胱結石	男	1	4	10	10	3	28	3.83	3.33
	女	2	1	1	0	0	4	1.73	
膀胱腫瘍	男	14	10	13	14	2	53	7.25	7.28
	女	0	1	5	7	4	17	7.36	
神経因性膀胱	男	0	1	1	4	0	6	0.82	1.14
	女	1	1	1	1	1	5	2.16	
膀胱異物	男	2	0	0	0	0	2	0.27	0.31
	女	1	0	0	0	0	1	0.43	
萎縮膀胱	男	0	0	0	0	0	0	0.00	0.10
	女	0	0	1	0	0	1	0.43	
膀胱白板症	男	0	0	0	0	0	0	0.00	0.21
	女	1	0	1	0	0	2	0.87	
膀胱膣瘻	女	0	1	0	1	0	2	0.87	0.21
計	男	17	15	24	28	5	89	11.17	9.25
	女	5	4	9	9	5	32	13.85	3.33
	計	22	19	33	37	10	121		12.58
入院総数に対する%		13.02	8.92	15.21	18.60	6.33	12.58	／	／

表7　尿　道　疾　患

年		1959	1960	1961	1962	1963	計	男女別入院数に対する%	入院総数に対する%
尿道腫瘍	男	0	0	0	0	0	0	0.00	0.42
	女	0	2	1	1	0	4	1.73	
尿道結石	男	2	1	0	1	1	5	0.68	0.52
	女	0	0	0	0	0	0	0.00	
尿道狭窄 炎症性	男	4	1	0	0	1	6	0.82	0.62
尿道狭窄 外傷性	男	2	5	4	5	0	16	2.19	1.66
尿道下裂	男	0	0	0	1	1	2	0.27	0.21
尿道破裂	男	0	2	2	0	0	4	0.54	0.42
尿道カルンケル	女	0	1	0	0	0	1	0.43	0.10
計	男	8	8	6	7	3	32	4.50	3.33
	女	0	4	1	1	0	6	2.16	0.62
	計	8	12	7	8	3	38		3.95
入院総数に対する%		4.73	5.63	3.23	3.90	1.90	3.95	／	／

表8　前　立　腺　疾　患

年	1959	1960	1961	1962	1963	計	男子入院に数対にする%	入院総数に対する%
前立腺結核　男	0	0	0	2	0	2	0.55	0.42
前立腺結石　男	1	3	2	1	2	9	1.23	0.94
前立腺癌　男	0	4	12	7	2	25	3.42	2.60
前立腺肥大　男	19	24	24	20	14	101	13.82	10.50
前立腺症　男	0	1	0	0	0	1	0.14	0.10
前立腺炎　男	0	0	0	1	0	1	0.14	0.10
前立腺膿瘍　男	0	1	1	0	0	2	0.27	0.20
計	20	33	41	31	20	145	19.56	14.86
入院総数に対する%	10.83	15.49	18.89	14.15	12.66	14.86	／	／

表9　尿路および性器腫瘍

年		1959	1960	1961	1962	1963	計	男女別入院数に対する%	入院総数に対する%
腎腫瘍	男	1	0	2	1	1	5	0.68	0.83
	女	0	0	1	1	1	3	1.30	
膀胱腫瘍	男	14	10	13	14	2	53	7.26	7.28
	女	0	1	5	7	4	17	7.36	
尿道腫瘍	男	0	0	0	0	0	0	0.00	0.42
	女	0	2	1	1	0	4	1.73	
前立腺癌　男		0	4	12	7	2	25	3.42	2.60
前立腺肥大　男		19	24	24	20	14	101	13.82	10.50
陰茎腫瘍　男		0	2	2	2	0	6	0.82	0.62
睾丸腫瘍　男		1	1	0	1	0	3	0.41	0.31

その他 男	0	1	0	0	0	1	0.14	0.10
計 男	35	42	53	45	19	194	26.55	20.17
計 女	0	3	7	9	5	24	10.39	2.49
計 計	35	45	60	54	24	218		22.66
入院総数に対する%	20.71	21.13	27.65	26.34	15.19	22.66	／	／

表10　睾丸，副睾丸，精索および陰嚢疾患

年	1959	1960	1961	1962	1963	計	男子入院数に対する%	入院総数に対する%
睾丸腫瘍 男	1	1	0	1	0	3	0.41	0.31
停留睾丸 男	3	0	3	1	0	7	0.96	0.73
副睾丸結核 男	5	5	3	4	6	23	3.15	2.39
精子侵襲症 男	0	0	1	0	0	1	0.14	0.10
精管結核 男	0	1	1	0	0	2	0.27	0.21
陰のう水瘤 男	1	0	0	0	5	6	0.82	0.62
精索静脈瘤 男	0	1	1	1	0	3	0.41	0.31
計	10	8	9	7	11	45	6.15	4.67
入院総数に対する%	5.92	3.76	4.15	3.41	6.96	4.67	／	／

表11　陰茎疾患およびその他の疾患

年	1959	1960	1961	1962	1963	計	男子入院数に対する%	入院総数に対する%
陰茎癌 男	0	2	2	2	0	6	0.82	0.62
包茎 男	1	0	2	1	1	5	0.68	0.52
尿失禁 男	0	1	0	0	0	1	0.14	0.10
乳糜尿 男	0	0	1	0	0	1	0.14	0.10
計	1	3	5	3	1	13	1.78	1.34
入院総数に対する%	0.59	1.41	2.30	1.46	0.63	1.34	／	／

表12　部位臓器別に分類した手術内容

	年		1959	1960	1961	1962	1963	計	
腎	腎剔除術	男	5	12	14	8	10	49	96
		女	9	7	9	11	11	47	
	腎部分切除術	男	0	0	1	0	2	3	3
		女	0	0	0	0	0	0	
	半腎切除術	男	1	0	0	0	0	1	1
		女	0	0	0	0	0	0	
	腎瘻術	男	1	0	0	0	2	3	8
		女	1	0	0	1	3	5	

	腎切石術	男 女	1 0	2 0	1 2	0 0	0 1	4 3	7
	腎盂切石術	男 女	4 5	5 1	2 3	3 3	4 3	18 15	33
	腎固定術	男 女	1 1	2 2	1 1	0 1	2 5	6 10	16
	計		29	31	34	27	43		164
尿管	尿管切石術	男 女	13 1	9 6	14 6	11 5	10 16	57 34	91
	尿管膀胱再吻合術	男 女	2 1	0 0	0 2	2 0	0 0	4 3	7
	尿管腸吻合術	男 女	0 0	0 0	1 0	0 0	0 0	1 0	1
	尿管皮膚移植術	男 女	1 2	2 2	0 4	0 4	1 5	4 17	21
	計		20	19	27	22	32		120
膀胱	膀胱全剔除術	男 女	2 0	2 0	0 0	0 0	0 0	4 0	4
	膀胱部分切除術	男 女	7 1	2 0	4 2	5 0	2 1	20 4	24
	膀胱高位切開術	男 女	1 1	1 0	1 0	4 0	2 1	9 2	11
	膀胱憩室切除術	男 女	0 0	0 0	1 0	0 0	1 0	2 0	2
	膀胱膣瘻閉鎖術	女	0	1	0	1	0		2
	経尿道的治療	男 女	8 1	6 4	12 5	13 5	18 3	57 18	75
	計		21	16	25	28	28		118
前立腺	前立腺全剔除術	男	0	0	1	1	0		2
	前立腺被膜下剔除術	男	13	13	7	13	13		59
	経尿道的治療	男	5	17	22	19	9		72
	計		18	30	30	33	22		133
陰茎	除精術	男	0	2	0	1	0		3
	陰茎切断術	男	0	0	1	2	0		3
	包茎手術	男	21	20	31	19	26		117
	計		21	22	32	22	26		123

尿道	外尿道切開術	男	1	0	0	0	1	2
	外尿道口切開術	男	0	1	1	1	0	3
	尿道憩室切除術	女	0	0	0	2	0	2
	直腸尿道瘻閉鎖術	男	0	0	0	0	1	1
	尿道成形術	男	1	3	1	6	5	16
	計		2	4	2	9	7	24
陰嚢内臓器	睾丸剔除術	男	7	5	11	9	4	36
	睾丸固定術	男	1	1	1	3	2	8
	副睾丸剔除術	男	4	7	12	3	5	31
	陰嚢水腫根治手術	男	3	4	2	3	5	17
	精索静脈瘤根治手術	男	0	1	1	1	0	3
	精管切断術	男	7	9	10	7	10	43
	計		22	27	37	26	26	138
総計			133	149	187	167	184	820

表13　経尿道的治療

年		1959	1960	1961	1962	1963	計	
TURP	男	5	17	22	19	9	72	
TURbn	男	0	0	1	2	0	3	7
	女	0	2	2	0	0	4	
TURbt	男	0	0	1	1	2	4	8
	女	0	1	1	1	1	4	
TUCbt	男	4	4	3	7	10	28	35
	女	0	1	2	2	2	7	
砕石術	男	4	2	7	3	6	22	25
	女	1	0	0	2	0	3	
計		14	27	39	37	30	147	

て独占され，尿管皮膚瘻術（21）は膀胱腫瘍（9）と子宮癌（8）に多い．膀胱高位切開術(10）は膀胱結石（4）と膀胱腫瘍（4）に，除睾術（36）は前立腺癌（17）についで睾丸腫瘍（8），副睾丸結核（6）に，尿道成形術（16）は尿道下裂（7）についで尿道瘻（4），尿道狭窄（3）に多い．

経尿道的治療（147）は前立腺肥大症（72）が半数，膀胱腫瘍（43）が約30%を占めている．

尿管皮膚瘻，腎固定術，腎剔除術が女子に多く，性器，尿道の手術がほとんど全て男子例である他，腎盂切石術，尿管切石術，膀胱全剔，膀胱部分剔出，高位切開，砕石術，TUCbt は男子に多い．

入院患者においては男子患者数の比重（男女比3.16：1.00)が外来患者におけるそれ（男女比2.18：1.00）よりも更に重くなっており，注目に価する．このことは男女別外来数に対する比率が女子2.6%より男子3.9%が高率であることによっても裏付けられる．

年令構成が2峯性であることは外来患者の場合と変らないが，外来で最高であった20才代が50才代と同率で第2位に下り，外来で第2位であった50才代の峯が60才代に移り入院で最高を示している．このことは男子60才代の患者の比重が特に増加し，女子の第1峯が20才代から30才代に移行していることによるもので，入院患者の性格が外来患者の場合より更に男性化し，又老令化していることを物語っている．

疾患別に頻度の高いものからあげると上部尿路結石，前立腺肥大症，膀胱腫瘍，腎結核，膀胱結石などで，これが入院患者の男性化と老令化の主なる原因をなすものと推測される．

比較的若年者でしかも外来において行なわれる包茎手術，精管切断術を除けば手術の大部分は尿路結石，前立腺肥大症，腎結核，膀胱腫瘍などに対して行なわれるもので，入院患者手術も亦入院患者と全く同様男性に多く老人に多いことになる．

VI　結　　語

1959～1963年の5年間における入院患者の疾患別，男女別，年令構成および手術の種類，頻度などについて統計的観察と多少の考按を試みた．

（1965年10月26日受付）